

■発行：富良野市議会 ■編集：議会広報特別委員会 [富良野市弥生町1-1 TEL 39-2322]



— 麻町地区 長寿祝賀会 —

平成23年  
第3回

## 定例会

9月6日～9月16日  
(11日間)

### 主な内容

- ・議決結果…………… P 2
- ・一般質問…………… P 3～7  
10名の議員が市政全般について質問
- ・委員会報告…………… P 8～10  
総務文教委員会報告、保健福祉委員会報告  
経済建設委員会報告、議会改革特別委員会報告  
議会広報特別委員会報告
- ・議会報告会…………… P 10～11
- ・平成22年度決算審査特別委員会設置等…………… P 11
- ・議会日誌・編集後記等…………… P 12

平成23年 第3回 富良野市議会定例会議決結果表

議案番号	事 件 名	議決月日	議決結果
議案第1号	平成23年度 富良野市一般会計補正予算(第6号)	9月16日	修正可決
議案第2号	平成23年度 富良野市国民健康保険特別会計補正予算(第2号)	9月16日	原案可決
議案第3号	平成23年度 富良野市介護保険特別会計補正予算(第2号)	9月16日	原案可決
議案第4号	平成23年度 富良野市公共下水道事業特別会計補正予算(第1号)	9月16日	原案可決
議案第5号	平成23年度 富良野市簡易水道事業特別会計補正予算(第1号)	9月16日	原案可決
議案第6号	富良野市税条例等の一部改正について	9月16日	原案可決
議案第7号	富良野市青少年補導センター設置条例の一部改正について	9月16日	原案可決
議案第8号	富良野市災害弔慰金の支給等に関する条例の一部改正について	9月16日	原案可決
議案第9号	富良野看護専門学校学生寮設置条例の一部改正について	9月16日	原案可決
議案第10号	富良野市表彰条例に基づく表彰について	9月6日	原案同意
議案第11号	富良野市財政調整基金の処分について	9月16日	原案可決
議案第12号	平成23年度 富良野市一般会計補正予算(第8号)	9月16日	原案可決
議案第13号	議員の派遣について	9月16日	原案可決
認定第1号	平成22年度 富良野市一般会計歳入歳出決算の認定について	9月6日	継続審査
認定第2号	平成22年度 富良野市国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定について	9月6日	継続審査
認定第3号	平成22年度 富良野市介護保険特別会計歳入歳出決算の認定について	9月6日	継続審査
認定第4号	平成22年度 富良野市老人保健特別会計歳入歳出決算の認定について	9月6日	継続審査
認定第5号	平成22年度 富良野市後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算の認定について	9月6日	継続審査
認定第6号	平成22年度 富良野市公設地方卸売市場事業特別会計歳入歳出決算の認定について	9月6日	継続審査
認定第7号	平成22年度 富良野市公共下水道事業特別会計歳入歳出決算の認定について	9月6日	継続審査
認定第8号	平成22年度 富良野市簡易水道事業特別会計歳入歳出決算の認定について	9月6日	継続審査
認定第9号	平成22年度 富良野市水道事業会計決算の認定について	9月6日	継続審査
認定第10号	平成22年度 富良野市ワイン事業会計決算の認定について	9月6日	継続審査
報告第1号	平成22年度 健全化判断比率について	9月6日	報告済
報告第2号	平成22年度 資金不足比率について	9月6日	報告済
報告第3号	株式会社富良野振興公社の経営状況について	9月6日	報告済
報告第4号	株式会社ふらの農産公社の経営状況について	9月6日	報告済
報告第5号	株式会社空知川ゴルフ公社の経営状況について	9月6日	報告済
報告第6号	専決処分報告について(平成23年度富良野市一般会計補正予算第7号)	9月16日	原案承認
意見案第1号	住民の安全・安心なくらしを支える交通運輸行政の充実を求める意見書	9月16日	原案可決
意見案第2号	学校施設の防災機能向上のための新たな制度創設を求める意見書	9月16日	原案可決
意見案第3号	原子力発電から再生可能エネルギーへの移行を求める意見書	9月16日	原案可決
意見案第4号	森林・林業・木材産業施策の積極的な展開に関する意見書	9月16日	原案可決
意見案第5号	J R三島・貨物会社に係る税制特例の恒久化等を求める意見書	9月16日	原案可決
意見案第6号	2012年度～2014年度「公立高等学校配置計画」の撤回・再考を求め、地域や子どもの実態に応じた高校づくり等を実現する意見書	9月16日	原案可決
意見案第7号	軽油引取税の課税免除措置などの恒久化を求める要望意見書	9月16日	原案可決
その他会議に付した事件	所管事項に関する委員会報告		
	・事務調査報告(総務文教)	9月6日	調査済
	・事務調査報告(保健福祉)	9月6日	継続調査
	・事務調査報告(経済建設)	9月6日	継続調査
	議会改革特別委員会報告	9月6日	継続調査
	議会広報特別委員会報告	9月6日	継続調査
	監査委員報告		
	・例月出納検査結果報告(平成22年度5月分、平成23年度5月分～7月分)	9月6日	報告済4
	教育委員会報告	9月6日	報告済1
	議案第1号平成23年度富良野市一般会計補正予算(第6号)に対する修正動議	9月16日	可決
閉会中の所管事務調査について(総務文教)	9月16日	許可1	
閉会中の都市事例調査について(総務文教・保健福祉・経済建設)	9月16日	許可3	

## 萩原 弘之

(民主クラブ)

### 富良野市の農村観光は

**問** 農村環境の変化に伴う不耕作地の改善と廃屋放置物処理は、

**答** 平成20年に調査を行い約28haの耕作放棄地があることが判明しその対策に22年、耕作放棄地対策協議会を設立した。本年は約8haに緑肥その他を作付けしその解消に向け取り組みをしてきた。今後さらに再生利用に強化推進をしていく。廃屋放置物については農村景観のみならず地方自治体としても行政課題となつている。農村景観の阻害、生活環境への影響、火災の危険性からも地域との連絡と連携をもとに所有者への適正な管理指導を要請していく。

**問** 農産物と観光の関わり方は、  
**答** 本市は農業、観光を結びつける場として様々な祭事を行い農産物、加工品を観光客や市民に提供をしている。さらに富良野オムカレーは市内の飲食店と連携を図り地場農産物を材料と

して全国に啓蒙発信をしている。取り組みとしてグリーンフラッグ事業を展開し市内飲食店等に地場農産物の利用を促しているところだが、富良野ワイン、チーズなどの普及も進んでおらず、特に冬季間の農産物確保が難しい点も課題である。今後加盟店による運営委員会を設置しイベントの実施や研修会の設定など具体的に取り組む。



グリーンフラッグ事業

**問** 修学旅行の農業体験は、  
**答** 本年は約2千名以上を受け入れ予定。農作業体験だけでなく農家生活体験の受け入れも、よりよい体制の整備推進を行っている。受け入れの体質強化、知識向上も各関係組織と連携し研修機会等を設けていく。

## 広瀬 寛人

(ふらの未来の会)

### 総合特区制度

**問** 活用方法の検討は、

**答** 環境、次世代エネルギー、観光、文化、農業・六次産業、バイオマス、物流・交通、教育・子育て、医療・介護・健康、金融、ソーシャルビジネスなどと認識しており今後、他地域での制度活用の情報収集を図りたい。

### 中小企業振興

**問** 物品納入や役務提供の入札ならびに随意契約の実態は、

**答** 平成22年度、物品購入に係わるものが、全体で115件1億8,532万円、このうち地元企業が受注したものは87件1億1,828万円である。また、業務委託等役務提供では全体で507件9億4,940万円、このうち地元企業が受注したのが358件7億9,376万円。地元企業の受注機会確保の措置について明文化されていない

が、最優先に発注業務を行っている。地元企業の受注状況など、情報の公表に向け、その方法を検討したい。

**問** 中小企業振興策は、

**答** 富良野市商工業戦略会議を立ち上げ情報交換を行っている。必要に応じて中小企業振興条例を見直し振興を図りたい。

### 政策連動は

**問** 安全・安心メールと地域見守りネットワーク等との連携は図られているのか。

**答** 防災情報に加え他に提供すべき情報の有効利用を検討する。不審者情報、詐欺情報などの防犯情報をメール配信の内容とした。



富良野市が提供する「安全・安心メール」

岡本 俊

(市民連合)

オーガニックアカデミー  
事業の進捗状況と評価は



「オーガニックアカデミー」

**問** 旧樹海東小学校利活用の地域再生計画は、農業技術者の育成、食農教育の場・農産加工など地域経済の活性化を目的に平成19年に公募の結果ジャパンバイオファームに決定し、オーガニックアカデミー構想として5年間で1億6千万円の投資、全国から研修生を年間受け入れ、農産加工・観光農園などをするとしていたが、現状は大きく計画と乖離している。これまでの

事業進捗状況と評価は。

**答** 今年度は短期研修で3日間延べ17名。有機栽培は約3.5haの農地にソバ、馬鈴薯、トマトなどを進めている。農産加工6次産業総合対策補助申請に至っていない現状にある。オーガニックアカデミー事業計画では総事業費140万円である。

地域再生計画と5年間の  
事業評価は

**問** 地域再生計画の目標は、食農体験施設を核に農業技術者育成、後継者育成、自然体験や環境教育など幅広い事業を施設で研修し地域振興を図るとしているが現状での事業評価について。

**答** 西達布地域における新規雇用、定住者、交流人口の拡大は大きく飛躍が期待できる状況にない。当初予定の事業展開になつていない部分が多く実行性のある事業展開を指導してきた。最終年の今年も、計画の多くの部分が進捗していない状況。投資総額は約1,170万円と当初計画と大きな隔たりがあり、庁内で協議を行い地域活性化につながるか慎重に判断したい。

関野 常勝

(民主クラブ)

**問** 観光資源としてのリサイクルセンターは、誘客に対しての観光メニューとして活用されていないのが現状であり、環境学習施設として位置付けされている。修学旅行生の受け入れなどの進捗状況は。

**答** 山部地域振興計画に基づき観光を切り口として活性化に向けて取り組んでいる。受け入れの現状では、社会見学と視察が中心であり、修学旅行生については、ふらの観光協会修学旅行センターと内容を再検討し、PRをしていく。

**問** 山部地域の振興策について、新エネルギー事業を推進するため、リサイクルセンターの拠点化と広域推進協議会の設置について見解を伺う。

**答** 平成21年度に策定した富良野地域新エネルギービジョンに基づき、地域特性を活かした新エネルギー源となる太陽光・風力・小水力・バイオマスなどの賦存量や利用可能量、導入の可



山部の「リサイクルセンター」

能性について調査し、検討する。本事業は、リサイクルセンター機能の活用や関係機関による推進協議会の設置も予定されており、新エネルギーが地域で活用され、地域振興に貢献するシステムモデルになればと考えている。

**問** 新エネルギー施策については、将来性のある取り組みと受け止めている。エネルギー産業を行政含めて勉強をすべきで、先進地視察が必要と考えているが、市の見解は。

**答** 北海道大学と連携し、富良野に合ったプログラムが採択となれば選定をしていく。先進地視察は内容を踏まえた中で、その時期が来れば必要と考える。

# 一般質問

黒岩 岳雄

(ふらの未来の会)

## JR富良野駅の環境整備は

**問** JR利用者（特に高齢者、身体障がい者、旅行者等）の対応として、JR北海道に対し駅舎のバリアフリー化の必要性和隣接するトイレの改善を要請し整備促進の働きかけをしては。

**答** バリアフリー新法のもと、1日当たりの乗降客5,000人以上の駅は、平成22年度までに優先的に整備された。本年3月31日には、平成32年を目標に日平均乗降客数が3,000人以上の全ての駅をバリアフリー化する基本方針が告示された。

富良野駅の平成22年度の日乗降客数は1,460人と基準を満たさないが、観光客が多数利用し3,000人を超える夏期の状況と高齢化社会等の地域実情を踏まえ、国・関係部署に要件緩和を要請していく。また、隣接するトイレは観光地をイメージづける大切な施設であるので、今後も改善に向けてJR北海道

に要請を行う。



JR富良野駅利用状況

## 東日本大震災に伴う避難者対応及び放射線量は

**問** 避難者受け入れ活動をしている市民、市内民間団体の持つノウハウを人づくり、まちづくりに役立てるための支援は。また平常時の放射線量を測定し、数値を公表できる体制は。

**答** 今回の被災者対応におけるボランティア活動の役割は大きい。行政として公平の原理原則により特別な支援はできないが、長期の受け入れ活動となるため相談に対し温かな対応を心掛ける。放射線量の測定は農業と観光のまちとして必要であるため、道と協議したい。

渋谷 正文

(ふらの未来の会)

## 農業振興は

**問** 富良野ブランドの定義とは。  
**答** 雄大な自然景観や美しい田園風景、テレビドラマ北の国からなどのロケ地、国際的な富良野スキー場、環境リサイクルの推進、演劇文化の発信、豊富でおいしい農産物などが、総合的に評価されて富良野ブランドとなっている。

**問** 関係機関との連携について、共通の農政上の最優先課題は。

**答** 本市における農業・農村の振興を総合的かつ円滑に推進するためには、関係機関・団体と連携し取り組むことが何より重要と考える。農業の持続的発展に関する対策はもとより、農村の維持及び振興対策、農畜産物の安全・安心の確保対策などについて、関係機関が一体となり総合的に対処することが極めて重要と認識している。

**問** 農商工コーディネーターの養成について。

**答** 農業や商工業の専門的な知識を持つ方々の協力を得ながら進めることが必要と考える。



地域力応援コーディネーターの取り組み

## 市職員の資質向上と研修は

**問** 民間の経営感覚を育成する交流研修に対する見解は。

**答** 今後、自治体職員には、めまぐるしい社会の環境変化に対応でき、経営感覚を備え、長期的視野に立った資本管理能力やコスト意識を持った人材育成が必要である。新たな視点に立った職員研修を検討する時期に来ており、民間研修も一つの手法として検討をしたい。

◇その他、土地・労働・資本の充実、新規就農サポート、新たな品目への取り組みなどを質問。

大栗 民江

(公明党)

AEDの装備や講習会等は

**問** AEDの使用について救急ガイドラインの見直し等が図られたと聞かれますが、公共施設・教育施設に設置されているAEDへの小児用パッドの装備は。

**答** 2010年のガイドライン変更により、小児用パッドは6歳未満への使用となり、無ければ成人用を代用してもよく、更に1歳未満の乳児にもAEDが使えることになった。6歳未満に成人用を代用できるとはいえず小児用パッドには電流を抑える減衰器がついており、乳幼児には小児用パッドの使用が勧められている。今後、小児用パッドは保健センター・文化会館・図書館・「ふらっと」に設置する。

**問** AEDが設置されていてもいざという時に使えなければ絵にかいた餅になってしまう。ガイドラインの変更や担当課の異動等を鑑み、受講しやすい体制を整える必要があると考える。

全職員はもとより市民への受講機会の普及について見解は。

**答** 富良野広域連合で実施する救命講習と日本赤十字救急法講習がある。今後も市民に対し積極的に講習を受けるよう周知していく。



「救急法実技講習」

**問** 文部科学省は、各種スポーツ団体にAED設置を呼びかける通知を出された。市の大きな行事等では設置施設からAEDを持ち出して備えているが、一般市民の行事等でも貸し出せる仕組みを整えていく必要があるのでは。

**答** 保健師等の配置も行っているため現在は考えていない。◇その他、高齢者肺炎球菌ワクチンについて質問。

本間 敏行

(ふらの未来の会)

本通り商店街の振興対策は

**問** 中心市街地活性化における本通り商店街の現状認識についてどう捉えているか。あわせて、振興対策への考えは。

**答** 本通り商店街の現状としては、金融機関など多くの撤退により、現在の事業所数は29店舗という状況にある。このような中であって、本通りと新相生通りが交差する場所にある三番館は、核となる店舗であり、その存続を考えることも本通り商店街にとって重要であると認識しているところである。また、市と商工業者の情報交換を定期的に行い、商工業の振興に向けた戦略的な事業・企画を実施する目的で富良野市商工業戦略会議を立ち上げ、情報交換を行っているところである。

今後、既存の中小企業振興条例の見直しによる活用しやすい支援メニュー、補助制度・融資制度の検討などについて、官民

一体となって作り上げていきたいと考えており、各商店街の協力は必要不可欠である。



本通り(中央通1)商店街風景

学校支援地域本部事業・学校支援ボランティアの活動状況は

**問** 学校支援ボランティアの登録数と活動内容は。

**答** 登録状況については、本年度は8月末現在で男性83名、女性174名の合計257名が登録されている。分野別の登録状況は、授業での補助の登録が一番多く116名。登下校時の安全、見守り活動が106名、本の読み聞かせが75名と続き、その外として学校施設の環境整備、学校農園指導など数多くの分野がある。

小林 裕 幸

(ふらの未来の会)

## 農業支援と農業共済制度

**問** 異常気象による農業被害で農業経営は非常に厳しく、緊急的対策のほかに継続的対策として農業共済制度がある。市の支援策と農業共済加入状況は。

**答** 平成21年度「冷害緊急支援事業」平成22年度「被災ハウス復旧支援事業」など支援。農業共済加入状況は、平成22年度に対し平成23年度は5割から8割を超える加入率。中でも、玉葱は平成22年度15%が平成23年度は5割を超えるまで上昇。しかし、まだまだ任意加入の部分の加入率が低く、加入するための状況づくりと、PR・啓蒙を進めていきたい。

## 有害鳥獣駆除と

## 職業ハンターの設置は

**問** 職業としてのハンター組織を設置し、緊急時の対応・常時出動・巡回できる体制を取る必要があると思うが。

**答** 現在、「富良野市鳥獣被害防止計画」に基づき、猟友会富良野部会の協力により実施。積極的な活動は、他市町村からも注目されている。また、ハンターの育成については多種の支援を行い、ハンターも増加している。職業ハンターについては、平成19年に制定された「鳥獣被害防止特措法」では市町村による「鳥獣被害防止実施隊」の設置、隊員は非常勤公務員とし、狩猟税の軽減措置が講じられるが、様々な課題がある。今後職業ハンターの設置を含めたハンターの育成について猟友会と協議しながら、効率的有害鳥獣駆除の体制づくりに向け、猟友会への支援を図っていきたい。



個体数管理が必要なエゾシカ

日里 雅 至

(民主クラブ)

## 行政施設の改築は

**問** 市庁舎の改築については。

**答** 新築から42年経過していることを考慮し、近年のうちに結論を出す。総合計画に庁舎改築事業を盛り込み庁舎改築の検討、推進をし、面積、新築か既存の建物の利用か事業費財源を含め具体的に検討していく。



築42年経過した富良野市役所

**問** 保育所統合による改築は。

**答** 第5次富良野市総合計画の中で平成25年度用地買収、実施設計委託、平成26年度に建設整備を行うが国の動向を注視し、

富良野市子ども子育て支援地域連絡協議会を開催し情報の共有をはかり、市役所内に富良野市立保育所再編庁内連絡会議を立ち上げ整備計画の策定、用地取得、高齢化が進む中、中心市街地の活性化などにも考慮し設置場所の選定に向け協議をする。

**問** 北麻町公営住宅について。

**答** 現在地での建て替えを計画。平成24年度に既存住宅の解体、実施設計を行い平成25年度より建設を開始し10年間で10棟60戸を建設予定。

## 中心市街地活性化

**問** 東4条街区市街地再開発の進捗状況について。

**答** 東4条街区市街地再開発事業の構想図公表の前日に法定協議会が開催され、地権者会である東4条街区再開発準備会で再配置案の基本合意を得たことから法定協議会で基本構想について事業推進の意向が示され合意された。地権者交渉は26軒中18軒合意、4軒地区外、3軒協議中、1軒答弁なしと報告。市は今後、事業計画資金計画含め推進本部会議で検討していく。

## 総務文教委員会

## ■地域防災の実態について

本市の災害対策は、「富良野市地域防災計画」にまとめられており、「空知川等洪水ハザードマップ」をはじめ震災対策、火山災害対策など、起こりうる各種災害の予防と対策を網羅した防災計画となっています。また、平成23年1月に災害時要援護者の避難支援プランの作成、2月には水害・土砂災害を中心に避難勧告等の具体的基準を設定した「避難勧告等の判断・伝達マニュアル」を策定しており、さらに、あらかじめ登録したパソコンや携帯電話などに防災・防犯情報をメールで知らせる「安全・安心メール」サービスも8月1日から開始しており、一定の評価をするものです。なお、調査の中では、主に次の3点について意見が集中しました。

- ① 自主防災組織結成の現状
- ② 住民への避難に関する周知の方法及び防災関係機関との連携
- ③ 避難所と避難路の安全対策

議論の経過として、1点目の自主防災組織の現在の結成状況は、連合会9、町内会8の計17組織で、平成19年以降増加がななく進捗が見られていません。地域の高齢者、乳幼児、障がい者など災害時要援護者の情報を地域全体で共有し、安心して暮らせる地域づくりのためにも、未組織地域の自主防災組織設立を早急に進める必要があります。

また、設立後は地域主体の防災訓練の定期的な実施の支援や、地域独自のハザードマップ、災害マニュアル作成の提案を行うなど、行政側からも自主防災組織に働きかけ、組織の活動が機能し続けられる状況を作っていくことが必要です。

このような活動の継続で、住民同士のつながりが深まり災害時の円滑な初動対応が可能になりさらに、組織活動を通じて地域の活性化に結びつくきっかけの一つになると考えます。

2点目の災害時の避難に関する周知については、いち早く、いかに多くの住民に情報を伝えるかが重要であり、サイレン吹

鳴、広報車による巡回周知、ラジオを含む公共放送など、あらゆる手段を使い情報を行き渡らせる必要があります。また、行政が消防・警察などの各機関との連携をスムーズにするためには、訓練内容を一層充実すべきと考え、より実践的な訓練を通して、職員が災害対策本部の事務分掌を十分に理解し、緊急時に即対応可能な連携体制を常に整えておく必要があります。

3点目の避難所と避難路の安全対策については、集中豪雨など自然環境の著しい変化にも対応できるように、新たな危険箇所がないか情報収集に努めるとともに、主に各小中学校が指定されている収容避難所においては、冬期の災害も想定し、今後の改修・改築の際は長期間の停電にも耐えられる自立型の施設として整備してはどうかなど、多くの意見が出されました。

このような議論を踏まえ、本委員会では、災害時には自らの身の安全は自らが守るよう行動することが基本ですが、行政が主体となって全市民の防災意識の高揚に努めることにより、予

期できない災害から被害を軽減できるものと考え、今後は防災行政の推進とともに、災害時要援護者の避難支援プラン個別計画についても速やかな計画遂行に努めるよう、次の点を意見に付し報告いたしました。

1、災害時の避難に関する住民への情報伝達については、あらゆる場面を想定し、より実践的な防災訓練を通して富良野市災害対策本部の機能が十分発揮できる体制を確立されたい。

2、地域住民及び事業所による自主防災組織の設立については問題点を整理し、富良野市地域防災計画に従い、地域事情に合わせた設置・育成を積極的にすすめられたい。

## 保健福祉委員会

本委員会は、地域医療に関する事業、特に地域センター病院の移転改築後における地域医療の実態や、医療受診者の実態に関して調査を進めてきました。

今後は、地域医療に関する総合的な調査として、さらに調査を深めていきます。



## 経済建設委員会

本委員会では、担当部局より資料の提出並びに説明を求め、また原料ぶどう栽培農家、種苗センター、ワイン醸造施設の現地調査を行いワイン事業に対する調査を進めてきました。

ワイン事業は、農業振興の一環として傾斜地や石礫地の農地の有効活用を図り農家の所得向上を目的に、さらに食文化の向上を目指し、1972年富良野市ぶどう果樹研究所が設立されてから約40年の歴史があり、地域の産業振興、雇用拡大につながってきたところです。

現在、原料ぶどうの栽培農家は富良野地区と山部地区合わせて31戸あり、「良いワインは良いぶどうから」を基本理念に糖度の高い良質な原料ぶどうの栽培に努めています。また、市の直営圃場では交配品種の試験栽培や従来の定番商品の原料であるセイベル以外にもヨーロッパの高級品種を試験栽培し、富良野の気候・風土に合う原料ぶどうの品種の選定を行ってきてい



ぶどう栽培現況調査

ます。その努力は、国産ぶどうを原料とするワインの品質を評価する「国産ワインコンクール2011」において、ふらのワイン白とソレイユの2点が銅賞を受賞し、ふらのワイン白は初、ソレイユは5年連続の受賞となり、ワイン生産に携わる多くの皆さんの口頃の努力の結晶と高く評価するものです。

現地視察では、生産者も今回の受賞を喜び、今後の励みとしています。同時により良いぶどう生産のために技術指導、品種の選定、後継者問題、ワインの消費拡大などの提案や意見を頂きました。今後は都市事例調査、他の農産加工事例や地域ブランド等の調査を進めます。

## 議会改革特別委員会

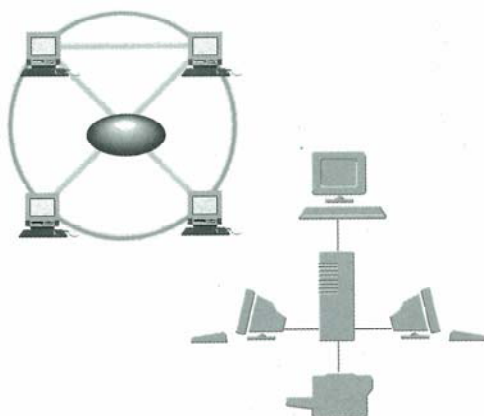
議会改革特別委員会は、地方分権時代に即した議会の在り方と、議会活動の活性化や議員定数等の問題を含め、より市民に身近な議会であるためにはどうあるべきかという課題を検討・改善するため平成17年第4回定例会に第1次の委員会が設置され議会改革を行ってきました。

第3次特別委員会の最終報告において、今後の課題として議会報告会の在り方、広聴広報活動の在り方、自由討議の充実、議会基本条例制定など8項目が検討課題とされました。

その具体的検討と実施に向け、今年第2回臨時会において第4次の議会改革特別委員会が設置され、これまで6回の委員会を開催してきました。初めに議会改革の必要性や基本的な考え、議会の使命と議員の職責など議会の認識を深め、課題の一点目である議会報告会の在り方、議会報告会の位置付について議論を重ねてきました。特に、幅広く住民の多様なニーズを再認識

するために、年代・産業別、NPO法人などとの幅広い議会報告会を開催すべき等多くの意見が出され、今年度14会場で行う議会報告会で、議会報告会の在り方について市民の皆さんの意見を聴取し、改めて実践と検証を行うことで意見の一致を見たところでした。

課題の二点目のインターネットによるライブ中継の検討は、ユーストリームを利用した議会中継を念頭に費用対効果、技術的検討、さらに第2回定例会会期中に議会中継デモを実施してきたところです。また、同日議会報告会にかかる自由討議も開催しており、今後より充実した議会報告会を目指します。



## 議会広報特別委員会

本委員会は、議会広報誌がさらに市民にとって身近なものになるよう、議会単独の広報誌の継続発行も含め、多様な媒体を活用した広報活動の在り方について調査・研究を行い、一元化した情報の管理と情報提供が行えるよう平成23年第2回臨時会で設置されました。

委員会ではまず、全員一致で広報誌の継続発行を決め、第52号を発行してきました。

次に、市議会だよりの発行以降、付託された「情報の管理及び発信の一元化」について、審議経過を報告いたします。

情報の媒体としては、「議会広報誌」「ホームページ」「ラジオふらの」「各種懇談会」「議会報告会」などが考えられますが、委員会ではまず、現在まで開催されてきた議会報告会において、特に議会広報について、市民の意見を伺うことになっていることから、これらの出された意見を確認後に協議を行ってきたところです。



広報委員会風景

市民の皆さんからは、「さらに見やすい紙面にしてほしい」「一般質問のページ数が多い」「質問時間も掲載してほしい」などの意見が出されていることから、今後の検討項目の一つとして議論し、さらに市民の皆さんに見てもらえる紙面づくりを目指すことにしています。

また、ラジオふらのについては、「難視聴地域問題の解消」「カバー率の向上」「放送のあり方」、ホームページについては、「掲載内容項目の検討」などの協議をしていますが、これらは全体を通してのものであり、細部にわたっての協議は今後、項目ごとに課題を整理し議論を重ねてまいります。

## 議会報告会

### ■議会報告会を開催！

市民全体の富良野を目指し

地方分権の意義は中央から地方への単なる権限・財政の委譲ではなく、行政をはじめ市民の皆さんが主体的な活動で地域に貢献し、よき社会づくりのため一翼を担うことにあります。

地方自治体は、市民の皆さんが住んで良かったと実感できる社会づくりの責任があります。

日本の地方自治体は、首長と議員が別々に選ばれ、異なる役割を果たす仕組みで、「二元代表制」とよばれています。これは、首長と議会が機関対立主義によつて建設的な緊張感を保つとの考えに基づいています。

富良野市議会は、市民主体の「まちづくり」を目指すには「開かれた議会、衆知を集める議会、行動する議会」を図る情報公開と住民の意見を代表する機能の充実を議会改革の柱にしています。

その一環として、地域に足を



東春コミュニティセンターにて

運び、住む地域によつて住民の意識や抱えている課題の違いをしっかりと向き合い多様な意見をくみ取りながら、政策提案に結び付けていくことが、今後の議会のあるべき姿であると位置づけて、昨年からは市内全域を対象に3班編成で9会場において実施しました。

しかし、参集範囲が広く参加しづらいとの反省に基づき、今年からは昨年同様に3班編成で市内全域を14ブロックに分け、地域会館・コミュニティセンターを中心に、来年2月終了を目的に開催することにいたしました。

9月までに、東春コミュニティセンター・栄町コミュニティセンター・麻町児童センター・

# 委員会の動き



栄町コミュニティセンターにて

南町コミュニティセンター・山部福祉センターで開催し、市民の皆さんの参加をいただき、貴重な意見も伺いました。

市民の皆さんの意見は、東日本大震災の出来事もあり、富良野市防災対策・地域防災訓練体制・富良野市防災計画の周知について、自主防災組織の活動さらに、震災の被災者の受け入れ体制などが出されました。

また、国民健康保険会計、国税負担の増に対する意見も出されました。

さらに、市街地における高齢化に伴うコミュニティの維持に対する不安、緊急時における地域コミュニティ内の個人情報取り扱い扱い対策などについての意

見をいただきました。

議会関連では議員定数・報酬、一般質問内容の充実・委員会調査項目テーマの提案・会派政党制などが主なものでした。

なお、議会報告会に関しては、開催日の連絡について・報告会のテーマの設定などの意見をおいただきました。

■議員定数・報酬について  
自由討議を開催

議会は、議会報告会など市民の皆さんの直接対話による多様な意見を整理統合し、委員会調査や一般質問・質疑・自由討議に結びつけ、政策提言能力の強化を目指しています。

今回、各地域の皆さんから議員定数・議員報酬をはじめ、各地域共通の意見をいただき、議会報告会役員会で定数・報酬についてをテーマとして自由討議開催の提案をし、議員各位の意見交換を行いました。

今後も順次開催し、市民の皆さんの提案、意見を議会全体で認識し政策提案・審議に結び付けていきますので、多くの皆さんの参加をお待ちしています。

## 平成22年度決算審査特別委員会を設置

◇平成22年度の一般会計外各会計決算が、監査委員(松浦惺氏、菊地敏紀氏)の審査を受け、認定を受けるため第3回定例会に提案されました。

### 【一般会計・特別会計】

- ・一般会計歳入歳出決算
- ・国民健康保険特別会計決算
- ・介護保険特別会計決算
- ・老人保健特別会計決算
- ・後期高齢者医療特別会計決算
- ・公設地方卸売市場事業特別会計決算
- ・公共下水道事業特別会計決算
- ・簡易下水道事業特別会計決算

### 【企業会計】

- ・水道事業会計決算
- ・ワイン事業会計決算

### 【各所管審査日程】

11月9日 (水)	保健福祉部・看護 専門学校・経済部
11月10日 (木)	建設水道部 教育委員会
11月11日 (金)	総務部 歳入総括
11月14日 (月)	予備日

上記日程にて傍聴できます。

◇本議会では、各会計の決算審査のため、議長と議会選出監査委員を除く議員16名による特別委員会を設置し、閉会中の継続審査としました。

なお、初日の定例会終了後に委員会を開き、委員長に天日公子委員、副委員長に広瀬寛人委員をそれぞれ選出しました。

◇また、9月16日の定例会閉会后に委員会を開催し、各所管にかかる審査日程及び決算審査に必要な審査資料を決定するとともに、22年度決算の総括説明を受けました。

●各常任委員会では、議長の許可を受け閉会中次の事務調査・都市事例調査を行います。

### ■事務調査

委員会名	調査番号	調査件名
総務文教委員会	調査第4号	学校教育について

### ■都市事例調査

委員会名	調査目的	調査地	調査日
総務文教委員会	学校教育について 地域の人材を生かした教育活動について	札幌市・江別市 千歳市	11月中旬
保健福祉委員会	地域医療の実態について	網走市・紋別市	10月下旬
経済建設委員会	農産加工の取り組みについて ブランド認証制度について	下川町・清里町 北見市	10月中旬

# 議会日誌

## 8月

- 2日・議会運営委員会
- ・第3回臨時会
- ・総務文教委員会
- ・議会広報特別委員会
- 5日・保健福祉委員会
- 8日・議会報告会役員会
- 10日・議会改革特別委員会
- 18日・総務文教委員会
- 20日・議会報告会(東春コミセン)
- 21日・議会報告会(栄町コミセン)
- 22日・議会報告会(麻町児童センター)
- ・議会改革特別委員会
- 23日・議会広報特別委員会
- ・議員協議会
- ・総務文教委員会
- ・保健福祉委員会
- ・経済建設委員会
- 30日・第3回定例会告示日
- ・議会報告会(南コミセン)
- 31日・経済建設委員会
- ・議会報告会(山部福祉センター)

## 9月

- 2日・議会運営委員会
- ・議会報告会役員会
- 5日・保健福祉委員会
- 6日・第3回定例会(1日目)
- ・総務文教委員会
- ・議会広報特別委員会
- ・決算審査特別委員会
- 8日・議会報告会役員会
- ・議員協議会
- 12日・自由討議
- 13日・第3回定例会(2日目)
- 14日・第3回定例会(3日目)
- ・議会運営委員会
- 16日・第3回定例会(4日目)
- ・決算審査特別委員会
- 22日・議会改革特別委員会
- 26日・総務文教委員会
- ・保健福祉委員会
- 28日・第4回臨時会告示日

## 10月

- 3日・総務文教委員会
- ・保健福祉委員会
- ・経済建設委員会
- ・沿線議長会議員研修会
- 4日・議会広報特別委員会
- 5日・議会運営委員会
- ・第4回臨時会
- ・議会改革特別委員会
- 7日・沿線議長会
- 11日・総務文教委員会
- 11~13日
- ・経済建設委員会都市事例調査
- 12日・議会広報特別委員会
- 13日・保健福祉委員会
- 14日・議会報告会(北の峰コミセン)
- 17~20日
- ・民主クラブ都市事例調査
- 24日・議会報告会(朝日会館)
- ・議会広報特別委員会
- ・総務文教委員会
- 25~27日
- ・保健福祉委員会都市事例調査
- 27日・広域連合議会
- ・議会報告会(西地区コミセン)
- 28日・議会改革特別委員会
- 31日・議会報告会(末広コミセン)

## 11月

- 1日・議会報告会(東部児童センター)

### 可決された意見書

◇第3回定例会に議員提案された意見書は次の7件です。意見書は可決後、直ちに関係機関に送付しました。

●住民の安全・安心なくらしを支える交通運輸行政の充実を求める意見書  
(天日公子議員 外5名)

●学校施設の防災機能向上のための新たな制度創設を求める意見書  
(大栗民江議員 外6名)

●原子力発電から再生可能エネルギーへの移行を求める意見書  
(今利一議員 外5名)

●森林・林業・木材産業施策の積極的な展開に関する意見書  
(岡野孝則議員 外7名)

### 傍聴してみませんか

平成23年第4回市議会定例会の開会予定日をお知らせします。

#### 【日程】

12月6日(火)	開会日
12月12日(月)	一般質問
12月13日(火)	一般質問
12月14日(水)	一般質問
12月16日(金)	最終日

開催日は変更する場合がありますので、傍聴の際は日程を確認してください。

多くの方の傍聴をお待ちしています。

\*問い合わせ\*

議会事務局 Tel.39-2322

●JR三島・貨物会社に係る税制特例の恒久化等を求める意見書  
(岡本俊議員 外5名)

●2012年度〜2014年度「公立高等学校配置計画案」の撤回・再考を求め、地域や子どもの実態に応じた高校づくり等を実現する意見書  
(横山久仁雄議員 外5名)

●軽油引取税の課税免除措置などの恒久化を求める要望意見書  
(石上孝雄議員 外7名)

### 編集後記



▼本年は春から天候不順で、秋に期待をしていたら、夏のゲリラ豪雨と長雨にたたられ農作物の収穫作業もかなり遅れたようです。

▼地球の温暖化が影響しているのか否かはわかりませんが、私の幼少の頃から比べると明らかに冬の最低気温が上がって、降雪量は少なく、夏は真夏日が続き本年は本州の梅雨を思わせるような気候になり、観光客の声を聴くと「さわやかな気候だと思っていたのに残念」と言っていました。徐々に変わっていく気候に私たちも順応していくなくてはならないようです。

▼富良野は、これからスキーシーズンに突入となります。スキーヤーが満足できるサービスを提供できるよう、市民

の1人としておもてなしをしていきたいと思えます。雪だるまや雪像づくり、かまくらに雪合戦、様々な遊びに雪は良きパートナーを演じてくれます。

▼雪まみれになって遊ぶ子どもたちは、富良野っ子らしい元気で明るくすこやかな成長にも雪は役に立ち、雪と共存できる富良野市民は、四季折々の様に楽しみを感じられる心を持ち続けていければと考えます。

▼とかく、世知辛い世の中と不安を感じている方々が多いようですが、富良野人の人なつっこさを今こそ発揮して、地域コミュニティを拡大し、やさしいまちづくりと観光都市富良野のイメージアップに雪を味方につけようではありませんか。

議会広報特別委員会  
委員 萩原 弘之